

令和6年度 京都府立工業高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)実施段階

学校経営方針(中期経営目標)	6年度の成果と課題	学校経営の重点(短期経営目標)
1 本校「校訓」と「教育目標」を根幹とし、高度技術化社会・国際化時代に対応した工業教育を推進し、国家及び社会の有為な形成者としての人間を育成する。 (1) 学習指導の充実による学力の向上と進路を切り拓く指導を推進する。 (2) 自他の生命や人権を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するなど豊かな心を育む指導を推進する。 (3) 国際化、高度情報化、技術革新に対応した教育など社会の変化に対応する指導を推進する。 2 小中学校及び大学、保護者、地域社会及び関係機関との連携を強化し、特色ある教育活動を展開することにより開かれた学校づくりを推進する。 (1) コミュニティスクール（学校運営協議会）制度を生かし、目標やビジョンを、保護者や地域社会と共有する。 (2) 企業・大学等との連携を深め、広く社会に貢献できる人材を育成する。 (3) 心身ともに健全な生徒を育てるため、学校のプラットフォーム機能を拡充させ、関係諸機関との連携強化を図る。 (4) 特色ある教育活動を工夫し、その成果を積極的に情報発信することで「選ばれる工業高校」をめざす。	1 成果 (1) 落ち着いて学校生活を送ることができている。放課後を活用して学力向上、資格取得促進・検定に向けての学習を行い、今年度も難関資格、検定に合格者を出すことができた。 (2) 学習指導については、教員の学習用ツール使用が定着化し、課題配信やアンケート実施など生徒個々の学習状況を把握することで個に応じた指導が行えた。また、採点ソフトの普及については普通教科を中心に活用が広まっている。 (3) 就職については、売り手市場もありさらに求人数が増え、約 2000 件の求人があった。一次内定率は約 95%と昨年度を上回った。進学については、学科、学年部及び進路指導部が一体となって指導を続け、総合型・学校推薦型の選抜で、国公立大学に 9 名が合格した。また、全学科にデータサイエンスの出前講座を行うことができた。 (4) 安全衛生管理とその教育の徹底を図り、実習や課外活動における大きな事故はなかった。また、第 1 学年対象の「性教育講演会」と第 3 学年対象の「生命のがん教育」を数年ぶりに実施できた。 (5) コロナ禍前と同じように各種大会・コンテストが行われ、工業系では、京都府ロボット競技大会で準優勝した。また、部活動においては、アーチェリー部がインターハイ男子団体の部で 8 位入賞するなど活躍した。 (6) ものづくり体験や出前授業については、今年度も近隣中学校等に出向き生徒が主体となって交流することができた。また、昨年に続き、地元企業の業務改善につながるシステム開発を行い、生徒の企画力、設計、製作技術が向上した。さらに、台湾の学校と対面による国際交流を行い、英語での意思疎通やものづくり交流を通して海外に興味を持たせることができた。 2 課題 (1) 近年の資格検定の試験・検定料高額化等により、受検者数が減っている状況は変わらず、その中で全体の合格者数も減っている。来年度、資格講習における ICT 機器のさらなる活用の研究を進め、資格取得の合格者数アップをめざす。まずは、受検者数の増加を図り「分かりやすい授業」を展開していく必要がある。 (2) 就職は、求人数は大幅に増加している一方、就職希望先が決められず一次選考を受けられない生徒もいた。進学は、国公立大学合格者数は増加したが、多様な進学先を選択できるようキャリア教育と共にさらに対策を講じる必要がある。 (3) 登下校時の事故も数件あったことから、交通安全教育に一層力を入れる必要がある。また、いじめの防止・解消など、いのちを守る教育について引き続き充実させ人権意識を向上させる。部活動の加入率については仮入部の活用等で引き続き活性化に繋げたい。 (4) 令和 7 年度選抜において志願者数は減少傾向で、定員割れは続いている。特に、志願者数の女子比率が少ない中、広報活動について工夫を行い、女子生徒の希望者を増やすことに努めたい。	1 学力向上の取組 (1) 基礎学力を定着させ、Society5.0 の社会に応用できる知識・技術・技能・情報活用能力を獲得させる。 (2) 学習用ツールと I C T機器の効果的な活用により、発達段階、学習段階に合わせた「わかりやすい授業」「わかる授業」づくりに取り組むことで個に応じた「学びの最適化」を図る。 (3) 資格・検定受検者数を増やすとともに I C T機器を活用し、合格率をアップさせる。 (4) 工作機器を有効活用し、創造力、技術力の向上を図る。 2 キャリア教育の充実 (1) キャリアパスポートの活用を促進し、自らの将来を考える機会を増やす。 (2) 企業や大学等との連携を深め、さらに効果的な職業教育の在り方を工夫・開発する。 (3) 「3 年間のキャリア学習計画」にともなう行事のブラッシュアップを図る。 (4) 時代に即した組織的な進学・就職指導体制を再構築する。 3 安心・安全の学校 (1) マナーや規範意識を高め、いじめ等の問題行動を防止する。 (2) 人権を尊重し、安心・安全な学校生活を保障する。 (3) 部活動を活性化させ、部活動加入率を上げるとともに心身ともに健全な生徒の育成をめざす。 (4) 自他のいのちを守る教育の充実・徹底を図る。 (5) 研修等により、新しい生徒指導提要の学習・理解をさらに進める。 4 魅力ある学科づくり (1) 生徒・教職員が一体となり「おもしろまじめ」な学校生活を共に創り上げる。 (2) 課題研究、授業との連携を図り、教育活動の中での SDGs(持続可能な開発目標)を明確化させる。 (3) 学校の魅力や学科の違いをわかりやすくアピールするため、学科ごとに課外での地域連携を活発化する。 (4) 小中学生向けの体験活動を強化し、高い目的意識を持った生徒募集につなげる。 (5) 工業の魅力が伝わるよう、男女共同参画型の広報活動を行う。

評価領域	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価		成果と課題
学力向上	基礎学力の定着 知識・技術・技能獲得・情報活用能力	普通教科間及び専門教科間の連携を密にするとともに、教科横断的な視点で個々の生徒の状況を把握・共有し、基礎学力向上に重点を置いた授業を実践する。	A	A	・教科を問わず、指導内容を共有するだけでなく、生徒一人ひとりの理解度について情報交換・フィードバックすることができた。 ・習熟度別の少人数講座を開設し、チームティーチングを実施することで、配慮が必要な生徒を含め、きめ細やかな指導を展開した。 ・学習用端末と手書きの双方の利点を活かし、適切かつ効果的に活用することで、生徒の学習効果を向上させることができた。
	段階に応じた「わかりやすい」「わかる授業」づくり、「学びの最適化」	習熟度授業や少人数制授業、チームティーチングを実施することに加えて、放課後の時間や学習支援ツール（タブレット端末や学習支援アプリ等）の活用を組み合わせることで個別最適化した指導を実践する。	A	A	
		学習用ツール（ロイロノート、スタディサプリ）を活用した授業をすべての教科で実践し、個別最適な学びを推進する。	A		
	資格・検定合格者数増加	放課後の活用のほか授業との連携を図ることにより、基本的な資格・検定の合格率を上げる。	B	A	
		基本的な資格取得やキャリア教育と連携し、難関資格取得へ向けたモチベーションの向上を図る。	A		
工作機器の活用 創造力・技術力向上	ICT機器を活用し学びの共有ができるように授業展開を実施することで、個別最適な学び・協働的な学びによる想像力、技術力の向上を図る。また学科の枠を超えて設備を活用し、より深く発展した工業教育を展開する。	A	A		
キャリア教育の充実	キャリアパスポート活用など将来を考える機会の増加	キャリアパスポートの作成・活用が効果的に行えるようなICT機器の使い方を模索し、情報を共有する。	B	A	・ICT機器を活用したキャリアパスポートの作成はできているが、それを活用した進路学習について検討が必要である。 ・学習計画に基づいたキャリア学習や進路行事、講演会の実施ができた。さらに卒業生を講師に招き、起業家教育の講演会を実施することができた。
		学校行事や進路学習の中で自らを知り将来を考えられる取り組みを意図的に設ける。	A		
	企業・大学連携と効果的な職業教育	インターンシップ、企業・大学等の見学や説明会の実施、課題研究等で地元機関と継続して連携する。	A	A	
		大学訪問を行い情報収集することで、新しい入試制度を効果的に活用した進学指導を行う。	A		
	キャリア学習計画のブラッシュアップ	学年や学科・教科と更に連携して、学校行事や進路学習等のキャリア計画をたてる。また、その計画にあわせたキャリアパスポートの作成・活用計画もたてる。	A	A	
	組織的な進学・就職指導体制の再構築	学校全体の進路行事だけでなく学年や学科ごとの進路行事も学校組織として進路指導できるように計画し、実施する。	A	A	
		ICT機器を取り入れ、効果的な進路指導・進路学習を構築する。	A		
安心・安全の学校づくり	マナー規範意識向上といじめ等の防止	生徒会および生徒会各種委員会が具体的な取り組みの企画と実施をする。	A	A	・毎月の問題行動調査が、生徒の意識向上につながり、いじめの未然防止となった。クラブ加入率は変化しなかった。 ・人権HRや人権講演会の実施後に「人権だより」を配布し、学習成果を生徒、保護者及び教職員で振り返りを行った。 ・第1学年対象「性教育講演会」と第3学年対象「生命のがん教育」を実施させることができた。
		毎月の問題行動調査とともに生徒観察や情報収集を行い、いじめ対策会議を中心として未然防止・早期対応に努める。	A		
	人権尊重と安心・安全な学校	各学年で人権学習を実施し、自他の生命や人権を尊重する精神を涵養する。	A	A	
		部長訓話、HR指導、HR掲示等で貴重品管理や自転車の施錠等の指導を行い、防犯意識を高める。	A		
	部活動の活性化・加入率アップ	仮入部の形を取り入れ、入学当初からの入部のきっかけを促す。また、部活紹介の質を上げる。	B	B	
	自他のいのちを守る教育の充実・徹底	感染症に対する啓発活動を今後も継続し安心安全な教育環境の整備に努めるとともに、性教育等の講演会やHR学習を通していのちの大切さと尊厳を学び自らと周囲に対するいのちを守る教育の徹底を図る。	A	A	
	生徒指導提要の学習・理解	生徒指導提要の理解をベースに、具体的な生徒指導のあり方の教職員研修を行う。	A	A	
教育及び広報活動の推進	おもしろまじめな学校	生徒にとっての「おもしろいこと（実践的な学び、資格取得、部活動等）」を「まじめ」に続けられるサポートを行う。	A	A	・資格検定取得や部活動の実績を内外にアピールすることで生徒をサポートできた。 ・SDGsの17のゴールを確認する場面が少なく、学習内容の紐付けは不十分であった。 ・学科のコンセプトを明確化し広報資料を充実させることができた。 ・教員向けの説明会や中学生向けの体験学習を従来の形式に戻し、また個別進路相談会の回数を増やし広報活動を活発にできた。
	SDGsの課題研究・自習との連携	SDGsの17ゴールと学習内容を紐づけ、生徒に意識させながら学習に取り組ませる。答えのない課題に取り組む場面で、その課題が各ゴールとどのように関連しているかを意識しながら実践し、評価段階でSDGsとの関連を明確に表現する。	B	B	
	学科アピールのための地域連携の活発化	今後必要とされる「力」を明確にし、各学科で「どのような力が身に付くか」、その力を「将来どのように活用できるか」を確認しながら授業を進める。また、各学科の特徴を活かし地域や企業との連携を通して、授業で身に付けた力を発揮し社会貢献に取り組む。	A	A	
	目的意識を持った生徒の募集	各種説明会を実施すると同時に、動画配信も活用し工業高校の良さを常に発信する。	A	A	
		体験型の説明会を実施し、入学希望者が可能な限り自己の興味に沿った学科を選択できるように工夫する。	A		
工業の魅力が伝わる広報活動	ホームページや動画配信等を活用して、「ものづくり」のおもしろさや資格取得・部活動・行事等にまじめに頑張る生徒や学校の雰囲気を発信する。	A	A		
学校関係者評価委員会による評価		工業科の魅力や技能育成の重要性そして普通科高校との差異が保護者に見えにくい。「就職に有利」と簡単に考えがちではあるが、日本のものづくりを支える拠点が京都府北部にあって、多様な人材を輩出していることをもっとアピールしてもよいのではないかな。			
次年度に向けた改善の方向性		ICT機器を授業だけでなく資格・検定取得にも活用し、合格者数の増加を目標にまずは受検者数の増加を目指す。5年先・10年先を見据えた教育課程を考え、企業・地域・行政との連携だけでなく学科・学校との連携にも取り組み、次の時代の人材育成を行っていく。本校進学後の将来像がイメージしやすいよう、学校の取り組みを今よりもっと外部に発信し生徒募集に繋げる。			